

森林防疫ニュース

VOL. 4
No. 9
(No. 42)

林野庁 森林害虫防除室

1955. 9. 1

新生活運動

渡 辺 武 夫

最近新生活運動委員会なるものが発足し、各界代表の委員が発表された。新生活運動とはどんな運動かと、疑問を持つている人は、私一人ではないと思う。代表委員の顔ぶれを見ると、憲法改正の答申か、勧告でも出しそうな顔ぶれで、発表以来今日か明日かと運動展開の日を待っている人は沢山いると思うが、未だはつきりしないようである。

処が、8月21日の夕刊をふと開いたところ、“新生活運動”と題して、“蚊の居ない農村”という記事が出ているのを見て、成程このようなことをいつているのかと、私は疑問の一端がとけたような気がした。吾々の生活の中に、今迄非常に欠けていたことの一つに、環境衛生に対する御互の認識や、公共的活動があつたことに気がついた。公衆道徳や社会道徳として、今迄教えられて来たことは、他人の迷惑にならぬようにせよといった程度で、具体的、積極的活動は殆んどなかつた。戦後病氣に対する保健上の対策がかなり取上げられて来たものの、まだ緒についた程度が現状である。そこへ、突然、“蚊の居ない農村”が出現したことを聞かされて、やればやれるものだと云う感じを今さらのように深くした。ユカタ姿とウチワと蚊取線香の三拍子が、夏のトリオと考えられていた処へ、蚊のいない町や村が出現すると云うことになつては、唯事でなくなるわけである。然し一応蚊のいない環境に住んだなら、二度と蠅や蚊と同居する気にはなれないのは当然である。

人間社会にこのような運動が起るなら、自然の社会にも、新生活運動が必要なのは当然で、人工で自然のバランスを破つて行く進度は増大するばかりで、人間の仕立てた苗を植栽し、林木を仕立てることは、自然法則を破つた人工手段であり、これに対する環境衛生を考えないと、何時か、大被害を受けることは確かである。山の中の木迄そんな保護が出来るかなどと云う人には、あの蚊や蠅の群落の代表である農村でさえ蚊や蠅を駆逐した実態を見せるのが良い。人の住む附近だけを環境衛生だなどと云つて、自然は放置し、果実だけ利用しようといった、ずるい考えの人はこの社会から駆逐されるべき害虫の類に等しいのではあるまいか。森林の環境衛生こそ新生活運動の重要課題であらう。

こんなことを考えている間に足首に蚊の攻撃を受けてしまった。やはり日本は蚊と蠅の国かも知れない。
(林野庁研究普及課・課長補佐)

情 報

◇ 被害速報

病 害

○ タケの開花病

千葉 君津郡富来田町大字真里谷のタケ林に発生、7月2日発見。被害面積1町5反、被害本数17,000本。被害は昭和25年頃から毎年発生している。(君津地事・岩見一民 Ag 7. 29)

○ スギ稚苗の立枯病

秋田 大曲署荒川経営区 112, は小班(仙北郡協和村大字船岡)の3年生スギに発生、6月23日発見。被害面積18町、被害本数20,000本。被害はほとんど台地のみに発生し、傾斜地上部には発生していない。(大曲署・菅原松次郎 7. 10)

○ スギの枝枯病?

石川 能美郡西尾村西俣の14年生スギ林に群状に発生、6月30日発見。被害面積中害1反。枯損本数100本。被害は昨年から発生。駆除のため被害枝の焼却を行った。(県 7. 8)

森林防疫ニユース

○ スギの赤枯病

広島 比婆郡西城町大字大屋の6年生スギに発生、7月18日発見。被害面積10町。

佐伯郡佐伯町大字玖島の4年生スギに発生、7月12日発見。被害面積2町。

(県・田辺良三郎 7. 20)

○ スギの黒点枝枯病

山口 美禰郡秋芳町大字青景字大久保の3年生スギ林に発生、7月21日発見。被害面積7反。被害本数1,400本。被害は約1町、3,500本の造林地に発生した。被害は上部から漸次下部に拡大し、遂に枯死している。(県 秋吉出張所 7. 28)

○ スギ苗の林地根腐病

秋田 仙北郡内の昭和26~28年植栽のスギに発生、6月発見。被害面積80町。枯損面積約35町。被害は沢通り、平坦地、緩斜地等の成育良好な箇所集団的に発生、根部が腐敗し遂に枯死する。病原菌は、*Pythium* sp., *Rhizoctonia solani*, *Fusarium* spp. 等が認められる。

(林試秋田・佐藤邦彦 7. 13)

○ ヒノキの葉ふるい病

愛媛 宇和島署宇和島経営区1012, に, は, への各小班(北宇和郡津島町大字山財)の33~39年生および56年生のヒノキ人工林に発生、7月14日発見。被害面積8町, 被害本数19,200本。被害材積4,543石。被害地は土地中庸で, 風衝地にして, 成立本数過密, 間伐, 枝打が手おくれの感がある。被害木は生色なく, 赤褐色となり, 下方から上方におよび, 上部には葉が残っている。被害は全林木におよんで, 回復の見込みはない。

(高知局・植木善一 7. 20)

病虫害

○ カラマツのすす病

○ カラマツオオアブラ

○ ハマキガ科の1種

○ コガネムシ科の1種

長野 北佐久郡協和村大字細山の県行造林地の3~5年生カラマツに発生、7月中旬発見。被害面積中害2町, 微害30町, 被害本数8,050本。アブラムシの寄生により, すず病を併発し, 新葉は短小, 樹勢が著しく衰えている。又部分的にはコガネムシ科の1種およびハマキガ科の1種が寄生している。特にこの被害は, 北面の2~5度の緩斜地, あるいは平坦地に著しく発生している。

(県・出川和市 7. 31)

虫害

○ ヒメグンバイ

新潟 中頸城郡吉川町の1年生栽培グリに群状に発生、5月10日発見。被害面積激害1町。被害は本年初めて発生した。駆除のためBHC粉剤7.3%の散布を行った。(県 6. 29)

○ カラマツミキオオアブラ

北海道 本別署本別経営区8, に小班(中川郡本別町大字本別沢)の5年生シンシユウカラマツに発生、6月29日発見。被害面積8町。被害本数10,000本。現在生育が阻害されたものはないが, 蔓延のおそれがある。

(本別署・鈴木農夫男 7. 8)
帯広局 7. 9)

○ スギマルカイガラムシ

広島 佐伯郡佐伯町津田別府の5~6年生スギ人工林に発生、7月11日発見。被害本数10本。被害木の新芽に寄生, 葉色は黄白色となつているが枯死したものはない。

(佐伯地事・殿田隆行 Ag 7. 16)

○ キマダラコウモリ

熊本 浜町署内大臣経営区33, い, ろ小班(上益城郡矢部町大字菅)の2~5年生スギ人工林に点状に発生、7月発見。被害面積40町7反, 被害本数1,000本, 駆除のため被害木は引抜いて焼却している。被害は特に南面に多発している。

(浜町署・古木 太 7. 23)

○ コウモリガ

東京 南多摩郡由木町大字下由木の植栽後1年のキリに発生、7月1日発見。被害面積3反, 被害本数300本。

(南多摩地事・入月貞夫 7. 11)

石川 江沼郡山中村字柏野の10年生スギ人工林に群状に発生、7月3日発見。被害面積中害1反枯損本数5本。被害は毎年多少発生している。駆除のため被害木の穿入孔から針金を入れ, 刺殺を行い, 又下刈りを行った。(県 7. 8)

山口 阿武郡旭村大字日南瀬の3年生スギに発生、7月2日発見。被害面積4反, 被害本数20本
(旭村担当・田中満泰 経指 7. 9)

○ カラマツツツミノガ

○ カラマツハマキ

○ マツノコマダラメイガ

長野 諏訪郡茅野町大字豊平, 北山の2~80年生カラマツに発生、5月20日発見。被害面積650町, 被害本数120,000本。被害木は相当生長が遅れ, 激害のものは既に枯死している。被害は昨年9月発見した。

(諏訪地事・鷹野原鶴亀 7. 8)

○ カラマツハマキ

長野 諏訪郡原村大字原山の2~30年生カラマツに発生、5月20日発見。被害面積150町, 被害本数120,000本。被害木は生長が相当阻害されている。被害は昨年9月発見した。

(諏訪地事・鷹野原鶴松 7. 8)
県 7. 14)

森林防疫ニュース

○ ハマキガ科の1種

北海道 帯広局阿寒署阿寒経営区 153, イ小班の阿寒苗畑(阿寒郡阿寒村大字富士見町)の20年生トドマツ防風垣および0年生トドマツ播付据置苗に発生, 7月16日発見。被害面積防風垣 816m², 播付据置苗 60m²。幼虫は防風垣のトドマツの枝条若葉を部分的に食害し, 幼苗を2~4本づつ糸で集めて営巣し, 蛹となり, 成長を阻害しているが, 未だ枯死したものは無い。

(阿寒署・佐野修治 7. 22)

○ マツのコマダラメイガ

福岡 田川郡下の川崎, 方城の両町内一円の3~7年生マツに発生, 4月15日発見。被害面積約10町, 被害本数40,000本。被害幼樹の心芽は枯死している。(田川地事・国分 満 7. 29)

○ マツカレハ

長野 長野市安茂里町大字安茂里字西河原観音の100~130年生アカマツ林に発生, 5月20日発見。被害面積3町, 被害本数150本。被害は昨年発生したらしい。

(長水地事・関 金治 7. 12)

岡谷市内山の7~10年生アカマツに発生, 6月30日発見。被害面積81町, 被害本数240,000本。

(諏訪地事・鷹野原鶴亀 7. 8)

上伊那郡箕輪町大字中箕輪の7年生アカマツの天然林に群状に発生, 6月25日発見。被害面積中害9反5畝。被害は昭和28年頃から多少発生していた。附近の3~5年生幼令林には昭和28~29年に大発生したことがある。被害が隣接の県営箕輪苗圃に蔓延のおそれがある。

(上伊那地事・登内 強 県 7. 13)

東筑摩郡本郷村浅間の10~80年生アカマツの天然林に群状に発生, 6月発見。被害面積激害1町, 中害1町。被害は昨年発生していた。

(松筑地事・下条亮平 県 7. 14)

下伊那郡上郷村大字黒田字一の沢の10年生アカマツの天然林に群状に発生, 7月1日発見。被害面積激害12町。被害は本年初めて発生したが, 隣接地に発生したことは既報のとおりである。

(下伊那地事・代田多見雄 県 7. 19)

下伊那郡大島村大字大島字西山の10年生アカマツに発生, 7月6日発見。被害面積約3町。被害甚だしく1部枯損したものもある。

(下伊那地事・関島寛雄 Ag 7. 20)

石川 江沼郡橋立村の45年生アカマツ天然林に点状に発生, 4月20日発見。被害面積中害6町。金沢市の50年生アカマツ天然林に点状に発生, 5月21日発見。被害面積中害5町。

羽咋郡下の志賀村の40年生アカマツ天然林に群状に発生, 5月21日発見。被害面積中害50町, 微害200町。羽咋町の40年生アカマツ天然林に群状に発生, 5月15日発見。被害面積中害25町。高浜町の50年生アカマツ天然林に発生, 5月25日発見。被害面積中害5町。

鹿島郡能登部町の30~50年生アカマツ天然林に群状あるいは点状に発生, 5月21日発見。被害面積激害250町, 中害100町, 微害150町。

七尾市の35年生アカマツ天然林に点状に発生, 5月21日発見。被害面積中害10町。

鳳至郡下の鶴川村の40年生アカマツ天然林に点状に発生, 5月21日発見。被害面積激害30町, 中害40町, 微害110町。穴水町の30~50年生アカマツ天然林に点状或は群状に発生, 5月21日発見。被害面積激害110町, 中害80町, 微害190町。

珠洲郡松波町の40年生アカマツ天然林に点状に発生, 5月21日発見。被害面積中害30町。

上記各地とも被害は毎年発生していた。駆除のためBHC粉剤γ3%の散布を行い, 羽咋郡下のみは黄蘗菌により駆除を行った。(県 7. 8)

山口 佐波郡徳地町大字八坂の約200年生のゴヨウマツおよび60年生モミに発生, 6月7日発見。被害本数2本。駆除のためBHC粉剤の散布を行った。(徳地町・山本 信 Ag 7. 10)

香川 高知局高松署高松経営区35, い。36, い。両小班(香川県高松市)の5~120年生クロマツおよびアカマツに発生, 5月21日, 6月13日発見。被害面積8町, 被害本数700本。駆除のためBHC粉剤の散布を行った。

(高松署番西担当区・長沢一郎 7. 8)

○ マツカレハ

○ マツノコキタイムシ

鹿児島 阿久根市波留の60年生マツに発生, 5月5日発見。被害面積1町, 被害本数50本。マツカレハは昨年発生, 当時駆除を行ったが, 今春再発した。被害木が衰弱したがためにマツノコキタイムシが発生して, 枝は枯死している。

(阿久根市森組 7. 13)

○ マイマイガ

山形 新庄市萩野字昭和の10年生カラマツ林に群状に発生, 6月1日発見。被害面積激害3反, 被害本数1,000本。全林が食害されている。

(最上地事・土岐 忠 7. 8)

○ ホリシヤキンタヤガ

愛媛 宇和島市石応の50~100年生ウバメガシに発生, 7月2日発見。被害面積1町, 被害本数1,000本。被害は本春第1化期に初めて発生し, 今回は第2化期の被害である。

(県・渡部乙彦 Sp. 7. 23)

森林防疫ニュース

○ アメリカシロヒトリ

愛知 名古屋市内一円のプラタナス、ヤナギ、サクラ、シンジュ、ポプラに発生、5～6月発見。被害本数 679 本。

(県・三浦和弘 7. 15)

○ クルミハムシ

群馬 前橋局中之条署中之条経営区79, い, への各小班(吾妻郡原町大字萩生字古賀良国有林)のアカマツ人工林50町内に点在する, 18年生オニグルミに点状に発生, 6月22日発見。被害本数 600 本。被害木は全葉が食害されているが, 他の樹種には被害はない。

(中之条署・堀口政之助 7. 16)

○ ケブカスギハムシ

鹿児島 嚙喰郡末吉町大字南之郷, 柿木の2～3年スギ人工林に発生, 4月25日発見。被害面積 4 町, 被害本数 2,000 本。被害林は皆伐跡に即時植栽したものである。被害木は枯死。6月上旬～中旬交尾。駆除のため BHC 粉剤 γ 1% を反当 4kg の散布を行い, 完全に全滅した。

(嚙喰地事・馬場透 Ag. 7. 7)

○ スギハムシ

千葉 君津郡富来田町大字市野々の1～5年生マツ, スギ, ヒノキに発生, 7月23日発見。被害面積 10 町, 被害本数 35,000 本。被害木は各樹種ともに新梢部は緑であるが, 食害痕が見られ, 古い葉は褐色となり, 生長が純つている。

(君津地事・岩見一民 Ag. 7. 29)

神奈川 足柄郡下の下記各町村のスギ人工林に発生, 6月発見。被害木の樹令, 被害面積は次の通りである。

松田町(4～6年生, 2町7反)。金田村(4～6年生, 5町)。三保村(7～8年生, 5反)。岡本村(4～5年生, 10町)。共和村(4～10年生, 10町)。山北町(3年生, 3反)。

上記各町村の内, 三保, 岡本, 共和, 山北の各町村は激害, 松田, 金田, 三保の各町村においては駆除のため DN 1% 粉剤を反当 4kg の散布を行った。

(足柄上地事・宮田英次 7. 21)

三重 志摩郡阿児町鶴方字山口の1～3年生のマツに発生, 7月15日発見。被害面積激害 1 町, 中害 2 町。

(志摩地事・東利雄 Ag. 7. 16)

京都 福知山市長田の3～5年生アカマツ林に発生, 7月11日発見。被害面積 70 町, 被害本数 35,000 本, 被害木は一見枯木の様な状態になっているものもあり, 大部分のものは下部半分位が赤くなっている。

(天田地事・渡辺義学
神社虎男 7. 19)

兵庫 有馬郡三輪町大字成谷の5～8年生のアカマツ天然林に発生, 7月12日発見。被害面積約 1 町, 被害本数約 10,000 本。被害林地は瘦悪地帯で, アカマツの生育は一般に不良, 1部の30年生の生育不良のものにも多少発生している。その他林内に自生するにも被害が発生している。

(有馬地事・前中平示 Ag. 7. 15)

赤穂郡上郡町大字栗原の5～7年生アカマツ, クロマツに発生, 7月21日発見。被害面積 3 畝, 被害本数 150 本。被害木の 1/3 は枯死に瀕している。駆除のため BHC 粉剤を反当 5kg の散布を行った。

(上郡町船坂森組・村尾勝 7. 26)

奈良 南葛城郡吐田郷村大字関屋の字杉山, 祈滝, 大辻, シシアカの1～5年生スギ, ヒノキ人工林に発生, 7月15日発見。被害面積約 80 町。被害本数 20,000 本。被害林は昭和26年度より5ヶ年計画で水源林造成のため植栽した地域である。被害木の約半数は回復の見込み, 被害発見が発生の際最盛期を逸している関係上, 極めて目立っている。県境(大阪府南河内郡)附近は未だ成虫が発生, 食害中であつたので, 駆除のため BHC 粉剤 γ 1% を反当 6kg の散布を行った。本県下で, スギ, ヒノキ人工林に本虫の発生を発見したのはこれが初めてである。

(県・村田武彦 7. 21)

鳥取 日野郡根雨町大字高尾の5～7年生スギ人工林に群状に発生, 7月6日発見。被害面積微害 3 町, 被害本数 9,000 本。被害は本年初めて発見した。

(県 7. 9)

岡山 真庭郡久世町大字三坂のスギ, ヒノキ林に発生, 7月4日発見。被害面積 5 反, 被害本数 1,500 本。被害木のスギは黄褐色, ヒノキは茶褐色となり, 葉が落ちる。被害は昨年から発生していたらしいが, 地元所有者は本虫による被害と気付かなかつたという。

(勝山地事・上野善弘 Ag. 7. 9)

岡山県下の被害は上記久世町の外, 次の各地にも発生している。

勝田郡下の奈義町, 勝田町。

御津郡下の一宮町, 津高村。

浅口郡鴨方町。

都窪郡早島町。

上記各地の3～10年生マツ天然林およびスギ苗に群状に発生, 6月28日発見。被害面積激害 305 町, 中害 716 町, 微害 504 町。枯損面積激害地の内の 30 町。スギ苗圃の被害面積 5 町。被害は昭和28年都窪郡早島町に発生を初めて発見, 当時の被害面積 30 町。駆除のため BHC 粉剤 γ 3% を反当 3.5kg の散布を行った。

(県 7. 12)

森林防疫ニュース

福岡 筑紫郡太宰府町大字太宰府の5年生マツに発生, 7月15日発見。被害面積10町, 被害本数30,000本。駆除のためBHC粉剤を反当4.5kgの散布を行つた。

(太宰府町・中野儀三郎 7.20)

熊本局直方署内の直方経営区100,ろ.99,はの各小班(遠賀郡岡垣村大字戸切)の4年生クロマツに発生, 7月10日発見。被害面積4町, 被害本数12,000本。駆除のためBHC粉剤 γ 3%の全域の散布を行つた。

(直方署・落知宗安 7.26)

熊本局直方署直方経営区58,り小班(山田市大字上山田)の4年生アカマツに発生, 7月10日発見。被害面積5反, 被害本数1,500本。駆除のため下刈りを行つた。

(直方署・落知宗安 7.27)

遠賀郡下の中間町大字匣谷の4年生マツに発生, 8月1日発見。被害面積5町, 被害本数15,000本。

村大字虫生津の県行造林地の3年生マツ林に発生, 7月26日発見。被害面積3町, 被害本数10,000本。被害林はいずれも山火事の跡のような状態となつている。

(遠賀地事・森田治美 7.29)

佐賀 熊本局佐賀署佐賀経営区42,は.41,いの各小班(神崎郡東背振村大字三津)の3~6年生スギ, ヒノキ, クロマツに発生, 7月22日発見。被害面積40町, 被害本数50,000本。被害木の半分は枯死するものと認める。

(佐賀署 7.27)

熊本 阿蘇郡阿蘇町大字内牧,湯の浦の25年生アカマツ, 20年生スギに発生, 6月26日発見。被害面積3町, 被害本数5,000本。激害地約1町は枯損のおそれがある。被害林は昭和28年6月29日に発生を発見した同一地域である。駆除のためBHC粉剤 γ 3%の散布を行つた。

(阿蘇地事・岩本幾雄 Ag. 7.13)

大分 臼杵市大字佐志生目明,藤尾の3年生スギ, 3, 5, 18の各年生マツに発生, 7月12日発見。被害面積6町, 被害本数スギ3,000本, マツ約4,000本。3年生マツ, スギの約700本は枯死すると思うが, その他のものは枯死はまのがれるものと認める。

(北海道地事・河野 登 Ag. 7.18)

宮崎 熊本局高岡署内山経営区18,は,にの各小班(東諸県郡高岡町)の12~14年生スギ, クロマツに発生, 7月1日発見。被害本数5町, 被害本数スギ750本, クロマツ30本。駆除のため砒酸鉛を町当3kgにカゼイン石灰5kgを混じたものの散布を行つたところ, 効果を認めた。

(高岡署岩前担当区・谷川内敏雄 7.26)

○ スギハムシ

○ コガネムシ

茨城 東京局高萩署高萩経営区190,い.209,へ,り,ぬ,よ,か,は.213,は.214,いの各小班の4年生アカマツ, ヤシヤブシの人工林, 10および24年生, ナラその他広葉樹の天然林に発生, 6月30日発見。被害面積激害8町5反7畝, 中害12町8反4畝, 微害21町8反3畝。被害は昭和28~29年に190,い.214,いの各小班に発生, 駆除を行つた。190,い.214,いの両小班のアカマツ植栽木の中約10%は枯損のおそれがある。その他は生育は阻害されるが, 枯損のおそれはない。駆除のためBHC粉剤 γ 3%を反当2kgの散布を行つた。

(局 高萩署 7.12)

○ スギハムシ

○ スジコガネ

鹿児島 始良郡横川町大字上野,楠下迫の3年生クロマツ林に発生, 7月4日発見。被害面積8町, 被害本数24,000本。林地内のクロマツの葉は全部食害されている。駆除のため下刈りを行つた後BHC粉剤 γ 3%を反当2.5kgの散布を行つた。2種の害虫が同時に発生している。

(始良地事 7.8)

○ スギハムシ

○ スギハダニ

福岡 小倉市朽網,貫の3~6年生スギに発生, 7月4日発見。被害面積50町。

(小倉市企曾森組・藤本治之 7.23)

○ ヒメスギカミキリ

熊本 玉名郡南関町大字坂下の30年生ヒノキに群状に発生, 7月8日発見。被害面積2町, 被害本数40本, 被害材積10石。被害地は甚だしい瘦悪地で, ヒノキの成長が悪い。被害が次第に隣接地に拡大するおそれがあるので, 駆除のため伐倒, 焼却を行つた。

(玉名地事・佐々木茂雄 Ag. 7.12)

○ クロキボシゾウムシ

○ マツノキクイムシ

和歌山 那賀郡粉河町大字中津川字淡路平の2~30年生アカマツに発生, 7月21日発見。被害面積10町, 被害材積1,500石。

(県 7.26)

○ ゾウムシの1種

○ マツノキイロコキクイムシ

鳥取 東伯郡泊村大字園字溪山の海岸線の30年生クロマツ林点状に発生, 7月7日発見。被害面積1町, 被害本数32本, 被害材積10石。被害木は枯死にひんしている。既往の発生地約2町は伐倒剥皮, 焼却を行つた。

(中部地事・平尾二郎 Ag. 7.8)

森林防疫ニュース

- エゾキクイムシ
- トドマツキクイムシ

北海道 函館局倶知安署 倶知安 経営区 65, は。68, い。の両小班(虻田郡喜茂別町大字中山国有林)の100~150年生トドマツ, エゾマツに発生, 7月18日発見。被害面積約5町, 被害本数70本, 被害材積500石。被害は昨年(15号台風による風倒木)に発生し, 生立木に移行するおそれがある。

(倶知安署・五十嵐米作 7. 22)

- マツノキクイムシ

秋田 秋田局秋田署11, ろ小班太平官行造林地(秋田市太平)の40年生アカマツ林に発生, 7月7日発見。被害面積2畝, 被害本数7本, 被害材積4石。駆除のため被害枝葉を伐り焼却を行った。

(秋田署・高橋金四郎 7. 29)

福島 東白川郡矢祭村大字山下字松山の土砂流出防備林の10~40年生ヒメコマツの天然林に発生, 7月11日発見。被害面積70町, 被害本数約10,000本, 被害材積300石。

(県・佐々木 寛 7. 27)

- マツノコキクイムシ

熊本 人吉署人吉経営区42, ほ小班(人吉市大畑)の41年生アカマツ, クロマツ林に点状に発生, 7月19日発見。被害面積5反, 被害本数10本被害材積10石。被害木は枯死にひんしている。

(人吉署人吉担当区・上村義強 7. 27)

- 松クイムシ

長野 諏訪郡富士見町大字屋敷平の30~40年生アカマツ林に発生, 6月上旬発見。被害面積激害2町2反, 被害本数10,000本, 被害材積3,380石。被害は昭和25~26年に発生し, 当時駆除を行い, 被害が減少したが, 最近再発した。隣接林に蔓延のおそれがある

(県・出川和市 7. 12)

- オオスジコガネ

青森 碓ヶ関署碓ヶ関経営区96, 98, 99の各林班(南津軽郡碓ヶ関村)の官行造林地の25~40年生スギに発生, 7月18日発見。被害面積激害30町。隣接農地150町のダイズ, アブラナ, バレイシヨに被害が発生している。現在シオヤアブが出現している。

(碓ヶ関署・小野泰輔 7. 21)

岩手 岩手郡滝沢村大字滝沢第24地割の4~5年生カラマツ林に発生, 7月28日発見。被害面積60町。被害が漸次拡大するおそれがある。1樹に150~200頭が寄生加害している。

(県・円子信幸 Sp. 7. 28)

静岡 東京局河津署加茂経営区102, 140の両林班(加茂郡仁科村大字大沢里)の37年生スギに発生, 7月発見。被害面積2町。民有採草地に隣接しているので, 林縁が加害されている。

(河津署・星 昭平 7. 26)

京都 天田郡三和村大字山 の25年生スギ林に発生, 7月14日発見。被害面積1反, 被害本数200本。

(天田地事・神社虎男 7. 19)

熊本 阿蘇郡産山町大字有無ヶ淵の20~35年生マツ, 9年生スギに発生, 7月1日発見。被害面積激害5町, 中害50町, 微害45町, 合計100町。被害本数260,000本。駆除のため焚火, 灯火誘殺を行った。激害木は葉を食い尽され, 赤く枯れている。

(阿蘇地事・岩本幾雄 Ag. 7. 15)

- スジコガネ

大分 熊本局森署玖珠官行造林地1, は。2, ろ。の両小班(玖珠郡玖珠町大字山田)の18~20年生スギ, クロマツに点状に発生, 7月13日発見。被害面積10町。

(森署・真辺 仁 7. 29)

- ナガチヤコガネ

福岡 田川郡採銅所村の5年生スギに発生, 7月15日発見。被害面積2反, 被害本数700本。被害木は枯死にひんしている。駆除のためBHC 粉剤 γ 3%の散布を行った。

(27経営区・有川昭雄 7. 21)

- ヒメコガネ

青森 南津軽郡平賀町大字小国館の沢の30年生スギに発生, 7月18日発見。被害面積10町, 被害本数10,000本。被害木は梢端部が食害されている。

(黒石林出・斎藤弥一郎 Ag. 7. 24)

和歌山 西牟婁郡下の三川村, 川添村, 栗栖川村三川村, 白浜村, 江住村, 東 田村の5~10年生スギその他モミ, ツガにも発生, 6月下旬発見。

(県 7. 19)

- コガネムシの1種

千葉 君津郡上総町大字大戸見, 山滝野の2年生スギ人工林およびスギ, ヒノキの苗圃に発生, 7月6日発見。スギ林の被害面積3反, 被害本数1,200本。苗圃の被害面積2反, 被害本数10,000本。被害林は砂質土壌, 間作にダイズを栽培している。苗圃には昨年も5,000本の被害が発生した。

(君津地事・岩見一民 Ag. 7. 29)

- オオアカズヒラタバチ

長野 南佐久郡平賀村大字常和字猿岩の26年生ドイトウヒ人工林に発生, 6月30日発見。被害面積微害1町5反。被害は昭和27~28年に発生したが, 本虫による被害であることは昨年8月下旬に確認した。新葉に多くの卵がついている。6月下旬に孵化。孵化した幼虫は, 樹冠の中, 下部に多く, 新葉を食害している部分には, 小枝にそつて, 絹糸と糞の塊状の巣がついている。現在は葉色も変わらず, 外観的には被害は目立っていない。

(南佐久地事・上村武夫 Ag. 7. 7)

○ カラマツハラアカハバチ

長野 長野局上田署川東経営区70, ヒ小班, (小県郡傍陽村)の52年生カラマツ林に発生, 7月15日発見。被害面積39町2反7畝。梢端部の葉を食尽す。葉裏に産卵, 1葉に幼虫が1頭づつ付いている。(長野署・和田南造 7. 21)

○ ハバチの1種

北海道 帯広局中標津署防風林3, わ小班(根室国標津郡中標津町字中標津27線北1~3号)の31年生トドマツ人工林に発生, 6月下旬発見。被害面積15町(激害地1町8反)。新葉を食害し, 1樹に2,000~3,000頭の幼虫がついている。駆除のためBHC粉剤の散布を行った。

(帯広局 7. 9)

○ マツノクロホシハバチ

長野 小県郡室賀村大字上室賀の35年生カラマツに発生, 7月12日発見。被害面積3町, 被害本数1,800本, 被害材積1,500石。針葉の大部分を食害している。(室賀村・中沢 武 7. 21)

○ マツノミドリハバチ

栃木 日光市大字所野霧降の水源林県林造林地の3年生カラマツ林に群状に発生, 6月25日発見。被害面積激害40町, 被害は本年初めて発生した。

(県 7. 13)

○ クリタマバチ

長野 西筑摩郡下の大桑村を中心に8ヶ町村の3~100年生クリに発生, 5月1日~6月30日発見。被害面積6,555町, 被害本数261,300本, 被害材積112,000石。被害は昨年発生した大桑, 読書, 吾妻, 神坂, 山口, 田立の6ヶ村の外, 本年は上松町, 王滝村, 三岳村に拡がり, その被害面積630町, 被害本数60,300本, 被害材積51,500石。

(県・出川和市 7. 8)

長野局福島署福島経営区25, は小班(西筑摩郡福島町)の50~70年生野生グリに発生, 6月27日発見。被害本数3本。被害は南向きの陽光, 風の直接あたるところには虫癭は発生していないが, 東北面の枝条の下枝に虫癭がついている。

(福島署 7. 9)

上伊那郡下の上片桐, 片桐の両村を中心に附近5ヶ市町村の5~45年生クリに発生, 5月10日~6月10日発見。被害占有面積123町, 被害本数100,000本, 被害材積4,700石。被害は下伊那地方から北上したもので, 木曾谷からの侵入とは考えられない。上記両村が激害の中心で, 最尖端は伊那市, 南箕輪村に達している。この間の天竜川西岸(竜西)の七久保村, 飯島町, 南向村, 駒ヶ根市宮田に散発的被害が出ている。東岸(竜東)には現在のところほとんど被害発生が認められない。蔓延拡大の阻止と虫癭採取に努めている。

(県・出川和市 7. 12)

下伊那郡下の各町村における被害天然林の樹令, 被害木の生立状態, 被害発生月日, 被害面積, 被害本数, 被害材積は下記の通りである。

大島村大字西山, 元大島(5~40年生。点状。6月13日。微害580町, 3,100本, 870石)。山吹村大字大机(3~30年生。点状。6月6日。中害50町。5,000本, 600石)。市田村一円(15~25年生。点状。6月10日。微害44町, 4,580本, 2,007本)。座光寺村大字猪の山(30年生。点状。6月1日。中害50町, 10,000本, 3,000石)。上郷村大字黒田(5~61年生。群状或は点状。5月1日。中害292町8反6畝, 31,900本, 47,834石)。三穂村大字立石字西山(5~15年生。点状。5月1日。中害70町, 10,500本, 840石)。伊賀良村一円(10~35年生。点状。6月5日。激害300町, 中害440町, 微害280町, 108,760本, 13,324石)。山本村一円(3~50年生。群状。6月10日。激害30町, 中害455町, 微害35町, 47,550本, 15,544.5石)。清内路村一円(5~60年生。点状。5月10日。激害2,100町, 63,000本, 15,200石)。会地村一円(10~38年生。群状或いは点状。5月20日。激害500町, 84,810本, 19,303石)。伍和村一円(5~50年生。点状。6月1日。激害295町, 中害295町, 76,800本, 7,680石)。智里村一円(5~80年生。群状或いは点状。6月1日。激害2,620町。317,100本, 26,567石)。浪合村一円(5~30年生。点状。6月1日。激害1,200町, 中害1,300町, 微害300町, 224,000本, 11,200石)。平谷村一円(5~30年生。点状。5月1日。激害2,980町, 161,000本, 8,700石)。根羽村一円(5~25年生。点状。6月1日。激害1,608町7畝。295,158本, 30,985石)。下条村大字陸沢, 陽阜(10~20年生。点状。5月1日。激害200町, 中害300町, 微害300町, 90,000本, 14,000石)。富草村大字粟野, 鷺巣(25~30年生。点状。6月8日。中害475町, 微害365町, 44,900本, 1,256.4石)。売木村一円(5~70年生。点状。6月1日。激害426町, 中害450町, 微害830町, 97,900本, 27,000石)。和合村一円(5~45年生。点状。5月25日。激害1,260町, 中害840町, 微害420町, 114,640本, 11,464石)。且開村一円(5~35年生。点状。5月30日。微害545町, 54,500本, 2,700石)。神原村大字郷戸, 見遠(10~38年生。点状。6月20日。激害286町, 3,450本, 1,384石)。

上記下伊那郡下の被害面積合計 激害14,170町7畝, 中害5,007町8反6畝, 微害3,334町, 総計22,511町9反3畝。被害本数合計1,848,648本。被害材積合計261,528石。

森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

飯田市大字上飯田字松川入の20～35年生クリ天然林に点状に発生、5月25日発見。被害面積中害、119町、被害材積18,440石。被害は昨年からの発生し初め、微害30町であつた。

(下伊那地事・関島寛雄 Ag.)
県 7. 14)

下伊那郡下大島村を中心に26ヶ町村の3～65年生クリに発生、4月5日～6月30日発見。被害占有面積1,849町5畝、被害本数1,879,328本、被害材積279,968.9石。昨年防除ラインとして対策を集中した飯田市を突破北上して、天竜川西岸の郡下一円を席捲し、更に1部は東岸に飛び、平岡村外4ヶ村に微被害を起している。東岸一帯に蔓延の危険があり、警戒している。

(県・出川和司 7. 11)

飯田市内においては上記の外5～40年生クリ天然林に群状或いは点状に発生、5月19日発見。被害面積中害193町、被害材積4,770石。被害は本年初めて発生した。(下伊那地事・関島寛雄 Ag.)

県 7. 15)

石川 県下各町村における被害天然林の樹令、被害木の被害発生月日、被害面積、被害材積、従来の被害は下記の通りである。

江沼郡下の三木村(5～20年生、4月25日。激害160町、中害20町、微害30町、6,440石。昨年)三谷村(5～25年生、4月25日。激害76町、中害14町、微害60町、5,160石。本年)。動橋町(20年生。6月23日。微害1町。5石。本年)。

能美郡下の金野村(5～25年生。5月20日。激害40町、中害15町、微害5町、3,000石。本年)。

国府村(5～30年生、5月30日。激害200町、中害60町、微害100町、22,004石。昨年、激害)。

山上村(5～30年生、5月10日、激害260町、中害50町、微害100町、25,000石。昨年、大発生)

石川郡下 (25年生、5月20日。激害20町、中害3町、微害7町。3,000石)。

河内村(25～30年生、5月15日。激害140町、中害20町、微害40町。8,000石。昨年)。

吉野谷村(5～25年生。5月15日。激害60町、中害10町、微害30町。4,000石。本年)。

鶴来町(5～30年生、45年生。5月15日。激害132町、中害25町、微害49町。11,930石。昨年)。

河北郡浅川村(5～25年生。5月20日。激害140町、2,800石。本年)。

金沢市(5～25年生。5月20日。激害280町、2,800石。本年)。

(県 7. 8)

和歌山 東牟婁郡下の三里村、請川村の一円の20～30年生クリ人工林に発生、6月30日発見。被害面積激害4町、中害4町。発見おくれたがために防除困難になる。

(請川村・平 亮 Ag. 7. 23)

○ ハムグリバエの1種

北海道 旭川局幾寅署落合岳、北落合両経営区内(空知郡南富良野村)に点在するシナノキに発生、7月初旬発見。被害面積5,000町、被害本数6,000本、被害はシナノキ全木に発生し、葉を食害し紅変している。(幾寅署・安田信道 7. 22)

○ スギノハダニ

栃木 上都賀郡下一円、特に里山の一斉林および混雑林のスギに発生、5月18日発見。被害面積激害1,200町、中害1,000町、微害2,000町。合計3,200町。被害は昨年からの突発的に大発生し、特に幼令木の里山に多かつたが、本年は奥地に蔓延している。20年以上の大径木にも被害が見られる。

(県・大沢 巖 Sp.)
県 7. 13)

広島 佐伯郡佐伯町大字玖島の4年生スギに発生、7月17日発見。被害面積2町。被害本数5,000本。

比婆郡西城町大字大屋の6年生スギに発生、7月18日発見。被害面積10町。

(県・田辺良三郎 7. 20)

山口 美禰郡秋芳町大字青景字宮の植栽後3年のスギ林に発生、7月21日発見。被害面積1反。被害本数200本。被害は約3反の挿木による約1,000本の内に発生し、枯死したのものもある。

(県秋吉経済出張所 7. 18)

大分 下毛郡下一円の17～18年生以下のスギに発生、7月1日発見。被害面積約1,500町。被害本数4,500,000本。被害は日田、玖珠両郡界および耶馬溪鉄道沿線附近が最も甚しい。日田、玖珠両郡方面から侵入したものと認める。

(下毛地事・徳永良介 Ag. 7. 18)

日田市秋原町字宮の迫の5年生インスギに発生、7月4日発見。被害面積3町。

(日田地事・石井吉日 Ag. 7. 16)

獣 害

○ ノネズミ

長野 諏訪郡富士見町大字 入山、広原の2～5年生カラマツに発生、5月1日発見。被害面積31町、被害本数130,000本、被害材積150石。被害木の内15%は枯死、10%は倒れている。

岡谷市大字内山の8～10年生ヒノキ、カラマツに発生、6月5日発見。被害面積37町、被害本数113,000本、被害材積460石。枯死したものは約50%。(諏訪地事・鷹野原鶴亀 7. 8)

南佐久郡北相木大字深沢、木原、山木の3～4年生カラマツに発生、6月29日発見。被害面積200町、被害本数52,000本。

(南佐久地事・上村武夫 Ag. 7. 21)

◇ 詳 報

ハジマクチバの被害例

神奈川県中郡土沢村ビワのマダケ林でハジマクチバの被害状況について本年8月4日調査を行ったので報告する。

本県内のマダケ林では各地ともに多少のハジマクチバによる被害を見られているが、本例はその最も甚だしいものと考えられるものである。

調査竹林は北面の風当りの少い良竹林で、調査面積は1.5反(見込)である。

調査は昭和30年生の立竹及び同年生の筍で立枯状となり残存しているものについて行い太さ別に集計した。

太さの区分は立竹については常法により、立枯状の筍については、成竹後の太さを推定出来る程度に生育したものは推定により太さを別け、推定出来ないものは()内に分けて別にした。

その結果は第I表の通りであつて、竹の太さと被害の程度との間には特に関連は見られないようで、どの階の太さのものにも大差のない被害率を示した。(第I表)



第I図 被害竹林の内部
中央のタケは被害竹で、
節の乱れが見られる。

- (1) 被害立竹
外部節の直上又は節間に孔があり、特に前者が多くて、その孔より液の流出した跡を認めた。孔の数は大部分が1ヶである。内部は各節を通じて孔があり、内壁が褐変しているものが多い。また被害竹では節の間隔の乱れたものが認められた。(第I, II図)
- (2) 立枯筍

第I表 竹の太さと被害の分布

竹の太さ	8 寸	7 寸	6 寸	5 寸	4 寸	3 寸	2 寸	不 明	計
無 被 害 竹	2	14	25	11	11	4	8	—	75
被 害 竹	3	5	6	10	3	1	0	—	28
枯死筍(竹)	1	14	24	24	11	7	6	(26)	87 (113)
合 計	6	33	55	45	25	12	14	(26)	190 (216)
被 害 率	66.7%	54.6%	54.6%	75.6%	55.6%	66.7%	42.9%	100%	65.2%

また、被害筍のうち成竹となるものの率は、第II表の通りで大体に於て太いものの方が細いものより多いように見られた。

中間に虫孔のあるものが多いが、先端部にあるものも少くなかつた。被害立竹よりも孔が多いが大であるものが多い処から、食害の多いものが生

第II表 被害筍の成竹となる率

竹の太さ	8 寸	7 寸	6 寸	5 寸	4 寸	3 寸	2 寸	不 明	全 体
成竹となる率	75.00%	26.32%	20.00%	29.41%	21.43%	12.50%	0%	0%	24.35%

個々の被害立竹又は筍の被害状況は次の様であつた。

育し得ないで立枯となつたように考えられる。(第II, IV図)

解 説

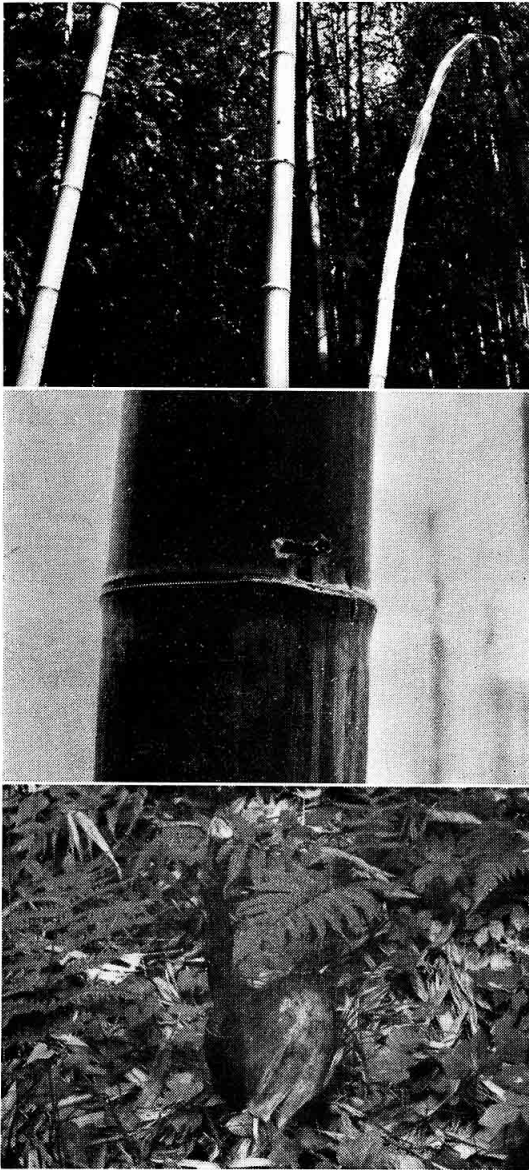
クリタマバチの虫癭から出た
ヒゲナガゾウムシ

中 条 道 夫

1954年8月の中旬、当時宮崎県庁林務部におられた伊藤武夫技師から“クリタマバチの虫癭から沢山のヒゲナガゾウムシが出て来たから種名を同定して貰い度い”と云つて数10匹のヒゲナガゾウムシと数個の虫癭とが送られた。而も“其の虫癭の中には未だ何匹かのヒゲナガゾウムシがいるかも知れない”との事であつたので、夫等の虫癭を大形シャーレーに入れて机の上に置いておいた処確かに2日後になつて3匹のヒゲナガゾウムシが出て来てシャーレーの中を這い廻つていた。調査の結果、夫等のヒゲナガゾウムシは全部コーヒーヒゲナガゾウムシ〔別名：ワタミ(棉実)ヒゲナガゾウムシ〕*Araeocerus fasciculatus* (DEGEEB)である事が判り、又夫等が虫癭の中から外界へ脱出する為に穿つた孔の大きさは虫癭の表面で大体2.0×2.5mm位の楕円形であつた。

このコーヒーヒゲナガゾウムシは、もともと熱帯地方に広く分布して居たものであるが、其の後次第に其の分布範囲を広めて、近年では殆んど全世界的に分布している。其の原因は、異郷の風土に対する適応力の大きな事とよりであるが、又其の雑食性に基因する処も甚だ大きいものと考えられる。即ち和名のコーヒーヒゲナガゾウムシや英名の Coffee weevil から直ちに察しられる様にコーヒー(乾燥豆)の著名な害虫である他に、草棉や木棉の種子(別の和名であるワタミヒゲナガゾウムシの由来)、ココア(乾燥豆)、ニクゾク類(nutmeg 及び mace)の種子、ジャワ・ハタンキヨウ (Java almond)、ブラジルナツト (Brazil-nut)、種々な荳類 (beans)、ヤシ類の種子 (Palm seeds)、乾燥果実類、シヨウガの根、トウモロコシの種子等に対しても加害を逞しうする事が知られており、更には未だ植物本体上にある生の荳類や或る種の生育中の作物 (growing crops) に加害する場合のある事等も知られて居て、兎に角相当な害虫として有名なものである。

然しこれが虫癭、殊にクリタマバチの虫癭に寄生すると云う事実は未だ報告された事がないのではないかと考えられるので、之を此処に記録して大方の御注意を御願ひしたいと思う。其の主な理由は、此のヒゲナガゾウムシが此の虫癭に寄生す



第II図 (上)

右の曲つたのが被害筍の立枯となつたもの。中央のタケは節の中間部と節の直上に、左のタケは節の中間部にそれぞれ孔が見られる被害タケである。

第III図 (中)

孔の部分拡大したところ。

第IV図 (下)

被害筍が立枯となつたもの。

(神奈川県・加藤銈治 Sp.)
寺沢 宏 Ag.)

る事が、吾々にとって有利な事なのか、或いは別に有益でもなんでもない事なのかを調べて頂き度い事に在る。此の点が本誌の読者諸賢にとって最も大切な事であると思うのだが、真に遺憾な事乍ら実は夫れが未だなんにも判っていないし、又私には今此の調査に割く事の出来る時間的な余裕が全くないので、広く本誌の読者諸賢、就中現場に在られる方々に是非とも注意観察調査を御願ひ致したいのである。勿論、若し此のヒゲナガゾウムシが、例えばタマカイガラヒゲナガゾウムシ *Brachytarsus kuwanai* YUASA (北隆館・日本昆虫図鑑, p. 1258, fig. 3626, 1950年参照) や *Rhynchaenus croceus* MARSHALL (Mushi, 九州大学・農学部・昆虫学教室発行, Vol. XXII, Pars 14, pp. 87~88, 1951年参照) 等の働らきの様に、此の虫癭に寄生する事によつてクリタマバチの繁殖を例えほんの僅かばかりの事にせよ剝圧する事になるのであるならば、吾々にとって大変都合な事であると思うからである。然し一方には此のヒゲナガゾウムシがもと〜植物質の乾物のこよなき嗜好者であり、時には生葉類をさえ愛用する(桑田・朝比奈・丹: 新昆虫, 1巻, 2号, pp. 22~23, 1948年参照) 事がある等と云う事を思えば、案外クリタマバチが羽化脱出してつた空の、而も乾枯らびた、虫癭に寄生するのも知れないと云う気もする。然し之等は何れにせよ今の処単なる推量に過ぎないのであつて、其の結果が前者である事を念願しつつ、御調査を御願ひ致し度いと思う。猶其の御参考迄に此のヒゲナガゾウムシに関する引用文献の若干も、当の標本による概形特徴の記載並に背面図を掲げて置く事にする。

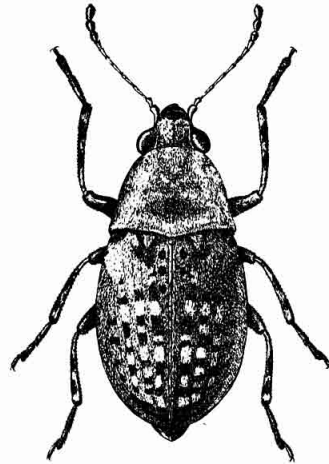
コーヒーヒゲナガゾウムシ

(又の名: ワタミヒゲナガゾウムシ)

Araeocerus fasciculatus (DEGEER)

Curculio fasciculatus DEGEER, Ins., V, p. 276, pl. xvi, fig. 2 (1775)

Araeocerus fasciculatus ROELOFS, Ann. Soc. Ent. Belgique, XXIII, p. 25 (1880) (Japan).—SCHÖNFELDT, Cat. Col. Japan, p. 125 (1887) (Japan).—KUHNT, Illustr. Best.-Tab. Käf. Deutschlands, p. 902 (1913) Introduced to Schlesia, (Germany).—REITTER, Fauna Germanica, V, p. 10, pl. cliii, fig. 11 (1916) (Germany).—SCHAUFUSS, CALWER'S Käferbuch, ed. 6, II, p. 1029 (1916) (Europe; Introduced from Tropical region, unnaturalized).—SCHEERPELTZ et WINKLER, in BROHMER, etc., Tierwelt Mitteleuropas, V, ii, Ins, 2, Col., p. 235 (1930) (Germany; Introduced from Tropical region).—KLOET et HINCKS, A Check



コーヒーヒゲナガゾウムシ

Araeocerus fasciculatus (DEGEER)

List of British Insects, p. 207 (1945) (England; Introduced).

Araeocerus fasciculatus DAMMERMAN, Agr. Zool. Malay Archipelago, pp. 9, 93~94 & 263~264, pl. xxxi, fig. 7 (1929) (Cosmopolitan).—MIRWA, A Syst. Cat. Formosan Col., p. 248 (1931) (Formosa; Cosmopolitan).—MIRWA et CHIRÛ, Cat. Col. Japonicorum, 7, p. 11 (1939) (Cosmopolitan).—常楽, おとしぶみ, (東京農業大学農友会昆虫部), VI, 1, p. 13 (1952) (日本, 世界共通).

Syn. (異名): *Curculio japonicus* THUNBERG, Nova Acta Upsaliensis, VII, p. 122 (1815) (Japan).

体形は卵形、体色は黒色、但し触角第1~8節は赤褐色(第1節の中央部や第2~8節各々の先端部は屢々暗色を帯びる)、口器は赤褐色乃至黒褐色、前胸背の前方部や翅鞘に点々と赤褐色部を有するものが尠くない、脚は基節(先端部は赤褐色)と腿節(基部と先端部とは赤褐色)とが大部分黒色、転節は赤褐色、胫節は赤褐色を主とするが、中央部の前後と先端部とは多少なりとも黒色、跗節は赤褐色(各節の先端部は屢々黒色)、爪は完全に赤褐色である。

頭部は幅広く、上面は大形な点刻を網目状に密に装い、其の上に灰白色毛或いは黄白色毛の何れか一種のみを密に装うものや、之等兩種の毛を或いは更に赤褐色毛をも交えて密に装うものがある。吻部は先方に幅広くなり、其の前縁は略々一直線乃至微弱な波状を呈し且細稜状に明らかに縁付けられ、其の上面後半部は夫れよりも後方の部分と同様同調に毛を装うが、前方部は黒色或いは黒褐色の絨毛を稍々密に装う。上唇は横長形で、

前・側縁は略々連続的に凸弧状を呈し、上面には黄褐色乃至は赤褐色の繊毛を稍々密に装う。大腮は強壯で、内方え強く弯曲し、先端は二齒状突起を呈する。小腮は細長の複眼は稍々大形、輪廓は略々楕円形、表面はよく凸出し、小眼は細小。触角窩は複眼の内縁下端に接して位置する。触角は体長の半長余り、第1節は稍々肥厚し且外方え弯曲し、其の内縁には若干の微毛を装う、第2節は第1節に類似の形態を持つが、後者よりも遙かに短細、第3～6節は甚だ細く且先方のもの程明らかに短かく、各節先端に若干の微毛を装い、第3節は他の10節の何れよりも多少なりとも長い、第7～8節は第6節よりも稍々太く且つ先方え僅かではあるが然し明らかに幅広くなり、各々先端部に若干の微毛を装い、第7節は第6節よりは短かいが第8節よりは長い。第9～11節は何れも明らかに拡大し、且互いに緩やかに連結して球桿部を形成し、短かい微毛を密に、稍々長めの微毛を疎らに装う。前胸背は鐘状を呈して前方え幅狭くなり、基縁に沿う部は横溝状に多少拮圧され、基縁は細稜状に強く縁付けられ、其の中央部は後方え凸弧状を呈するが両側部は凸弧を呈し、全面密に強壯な点刻を網目状に装い、更に白色・灰白色・黄白色・黄色・黄褐色・赤褐色等の毛を多少集团的に且雲紋様に装う。小楯板は甚だ小さく、略々方形（但し各角隅部は多少なりとも円味を有する）、白色乃至灰白色の毛に蔽われる。翅鞘は両側に緩やかな、先端部に強い円味を有し、背面はよく膨隆し、特に基部の中央・肩部・略々中央部で会合縁に近い部分等は亦別個に膨隆し且其の周囲は多少とも拮圧され、各翅鞘に10条宛の細縦溝を走らせ、夫等の間室は概して微かな凸形を呈する。翅鞘全面に密に装う毛は白色・灰白色・黄白色・黄色・黄褐色・赤褐色・黒褐色・黒色等のものが小集団をなし、複雑な斑紋を表わす（図に示したものは其の一例で、斯様な状態を示すものが多いが、而も夫等の間にも相当な個体変異が認められ、全体として仲々変化に富むものである）。尾節板はよく露出し、両側に多少の円味のある三角形で、末端部は稍々鋭く角張り、表面は密に強壯な点刻を装う他に、頭部に於ける様に単色又は複色の毛に蔽われる。

体下面は大小種々の点刻と灰色・灰白色或いは淡黄灰色の毛を稍々密に装う（但し後胸腹板と腹板と腹部との中央部に装う小点刻は両側部に於けるものよりも概して小形であり、又此処に装う毛も亦両側部のものより細短であり、点刻・毛共に多少疎らに分布する傾向が認められる）。脚は細く、前脚は中・後脚よりも明らかに長く、全脚体下面に於けると略々同様な毛を装う。腿節は中太り、脛節は細い棒状で先方え僅かに太くなり、跗

節の第1節は細い棒状で多少弯曲し且先方え微かに太くなり、後脚跗節の第1節は後脚脛節の半分よりも寧ろ長く、第2節は第1節と略々同形であるが、後者よりも遙かに短かく、第3節は二葉状で第2節より更に短かく、具爪節は棍棒状でよく突出し且下方え多少弯曲し、一双の爪は短く且強く下方え弯曲し、各々内側に短かい1小爪を分岐する。

体長：3.0～3.5mm（既往の記録では最小の体長が3.0mm、最大のものが4.8mmとある）。

分布：汎世界的。

終りに当り、此の純科学的にも又応用的にも大変興味の深い素材を提供された伊藤武夫技師に深謝の意を表して擱筆する。

（香川大学教授・農博）

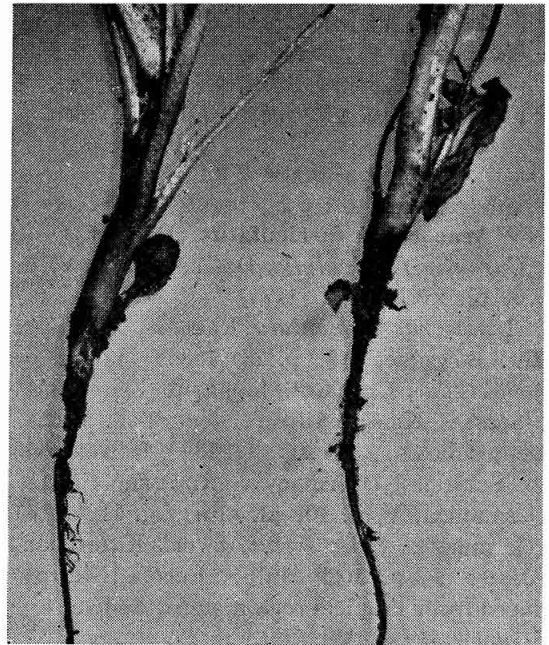


リゾクトニア菌による

黄花ルーピンの萎凋病（根腐病）

伊藤 一 雄

ルーピンは林業苗畑においても、かなり以前から、緑肥作物として輪作されており、なかでも黄花ルーピンが最も多く栽培されているようである。



第1図 萎凋病にかかつたルーピンの根および地際部を示したもので、黒褐色を呈して軟化腐敗している。〔伊藤原図〕

わが国でルーピンの病害で重要なものとしてはフザリウム菌 (*Fusarium*) による萎凋病 (島田 1938), シンドロクラジウム菌 (*Cylindrocladium*) による立枯病 (褐変病) (島田 1938, 松浦 1942) が報告されており, 特に後者の被害は著しく, 時として致命的な打撃を与える (寺下・伊藤 1955)。

ところで本年6月下旬, 林業試験場釜淵分場の塩田勇技官が, 山形県新庄営林署, 長坂苗畑を訪れたところ, 約2反歩にわたる黄花ルーピンの30%内外が, ある種の病気によつて萎凋枯死しているのを見て, 私に病名の診断をもとめられた。

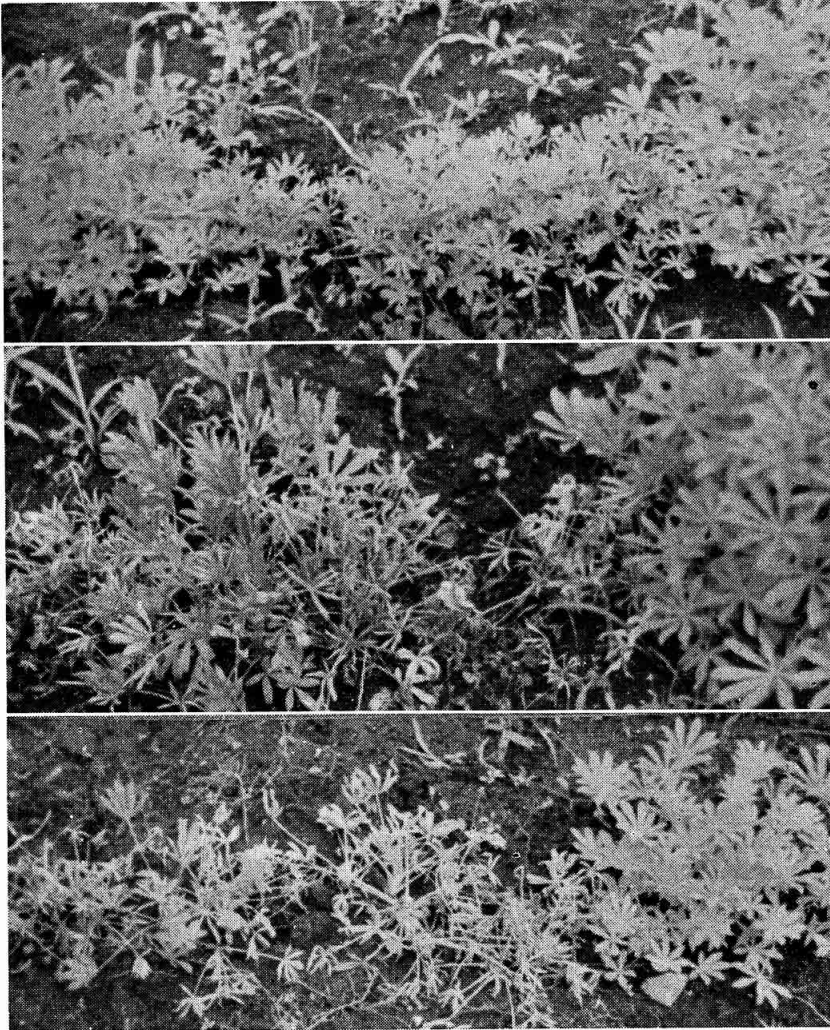
調査の結果, これはリゾクトニア菌 (*Rhizoctonia solani*) によつて, ルーピンの根冠部および根部が侵されたものであることがわかつた。リゾクトニア菌はきわめて多くの種類の植物に寄生する多犯性の性質をもっているもので, クローバー, ゲンゲ, インゲン, ダイズ, エンドウなどのマメ科植物をも広く侵すことがよく知られている。ところで, どうしたわけか, ルーピンについて, この菌による病害の報告は比較的少い。1930年以後の文献で, 私の目についたのはドイツ (RICHTER 1936) とオランダ (SAALTIJK 1950) からの, わずか2つぐらいのものである。ドイツ

ではリゾクトニア菌によるルーピンのこの病気を Fusskrankheit (Fuss=脚, Krankheit=病害) および Wurzelfäule (根腐) とよんでいるようである (RICHTER 1936)。

この病気にかかつたルーピンは一般に発育が不良で, 健全なものにくらべて概して小さい。被害は固状に現われ, 6月中旬頃からしおれはじめ, 同下旬頃には最も目につくようになり, やがて乾枯してついには死にいたる。これを引き抜いてよく見ると, 地際部および根が黒褐色を呈して甚しく腐敗している。

あとですき込むための便宜のためか, ルーピンを畦の底い凹部にまきつけすることがよくあるが, このような場合にはこの病気の被害が特に著しい。それで病気の面からみれば, このような栽培法は甚だのぞましくない。また有機水銀剤 (ウスブルン, リオゲン, ルベロンなど) による土壌消毒や発芽後の土際部への散布は, この病気の防除に効果があるものと考えられる。

(林試釜淵分場長・農博)



- 上から
 第Ⅰ図 中央部の小さいルーピンは病気にかかっているが, まだ萎凋はおこっていない。—初期—
 第Ⅱ図 中央部がやや萎凋しはじめている。—中期—
 第Ⅲ図 中央部はきわめて顕著に萎凋し, なお左もやせ萎凋している。—末期, 中期— (いずれも塩田氏原図)

観 察

スギノハダニに対する DN 剤の効果

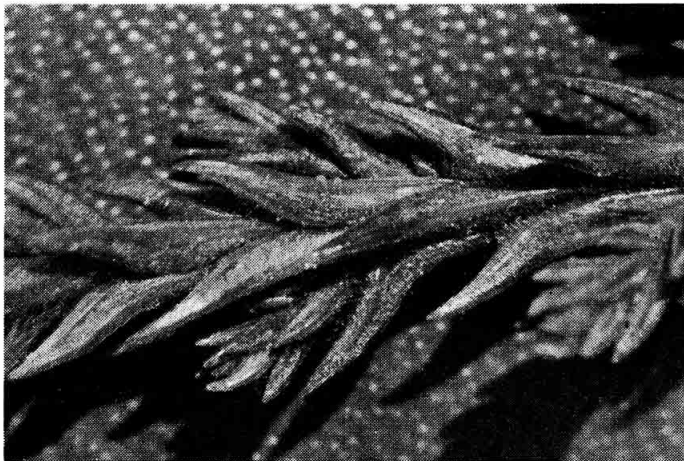
加藤 銈 治

DN 剤は殺蟬力と殺卵力とに優れていること、人畜に無害であること、粉剤で使用出来ることとで、山地に於ける使用に便利である。以上の3点からスギノハダニ駆除に使いたいと考えたが、スギノハダニに対する DN 粉剤の効果について明らかにしたものが見当らなかつたので、駆除実施の前に簡単な効果の試験を行つた。

供試の薬剤は DN 1% 及び 0.5% の粉剤で、ともに共同化学工業株式会社の製品を用い、昭和30年6月27日に散布を行つた。

被害樹は8年生のスギで、同日薬剤の散布前に、樹の中央部の枝条の先端部 15cm を採り、スギノハダニの棲息数を調査した。

採取した枝条は直ちに白紙上約 5 cm に保ち、各 50 回づつ強く打ち叩いてスギノハダニを落下させ、紙上のスギノハダニを算えて棲息数とした。



スギ枝葉に対する DN 粉剤の附着状況
白色粉状物は DN 粉剤
中央部針葉の上部に並ぶ 2 白点はスギノハダニの卵

その数は第 1 表の通りである。

第 I 表 散布前のスギノハダニの棲息数

スギノハダニ数	最 多	最 少	平 均
	143	65	90

試験区は DN 1% 粉剤区、0.5% 粉剤区の 2 区とし、夫々 3 kg の割合で、小型散粉機を用いて散布した。

薬剤散布の 24 時間後及び 168 時間後の 2 回、散布前と同様の方法でスギノハダニの棲息数を算えた処、夫々第 II、第 III 表の通りであつた。

第 II 表 散布 24 時間後のスギノハダニ棲息数

種 別	最 多	最 少	平 均
1% 粉 剤 区	28	1	9.36
0.5% 粉 剤 区	83	3	35.00

第 III 表 散布 168 時間後のスギノハダニ棲息数

種 別	最 多	最 少	平 均
1% 粉 剤 区	12	1	5.50
0.5% 粉 剤 区	25	2	11.30

効果は 1% 粉剤では 24 時間後までに 9.36 と散布前の約 10% に近い数を示したが、0.5% 粉剤では 35 と尚多数の棲息数を示し、168 時間後にはともに棲息数が減少した。

DN 剤は残効が高く評価されているがこの結果にもその特徴が表われているように思われる。ただ殺卵力とその後の残効

については以後の調査を必要とするが継続することが出来なかつた。

スギの枝葉に対する DN 粉剤の附着状況は甚だ良好で、特にスギノハダニの糸網によくまつわりついているのを認めた(図参照)また、DN 剤は夏期高温時には植物に薬害を生ずるとされているが、今回スギに DN 粉剤を使用した場合にはそれらしいものを認めなかつた。

尚本県では中郡大磯町の 5 町歩を初めとして約 12 町歩のスギノハダニの駆除に DN 1% 粉剤を使用したのが、いずれもその後スギの生育が回復したとの報告があつた。

(神奈川県林務課・保護 Sp.)

飢肥スギ挿木苗の赤枯病について

温水 武則

被害発生地……宮崎県内各地の県営並に民営苗畑の飢肥スギの挿木苗に赤枯病が発生し、宮崎県の依頼によって、その調査を行った。

被害発生地は、宮崎郡田野町、清武町、西諸県郡紙屋村、北諸県郡庄内町、西岳村、中郷村、南那珂郡北郷村、酒谷村などの20数ヶ所の苗畑である。

苗畑の被害……調査の結果被害苗は挿付本数2,837,000本のうち約3割の850,000本である。本被害は西岳、中郷、酒谷、北郷、鶴戸の各村から取った挿穂に被害が認められ、他の地域からとった挿穂には被害が出ていない。このことは本病害が採穂林によるものなることを示している。

病徴……この病害は、5月中旬頃から挿穂の新芽が赤褐色に変わり、挿穂の茎と枝の間或は針葉のつけ根附近にやや突出した黒色粒点が形成され、この粒点形成の部分から周囲が黄褐色に変色し、変色は次第に拡大して全葉が赤褐色となつて枯死する。病害は挿木の地中部に多く被害の重いものは地中部の樹皮がおかさされ、挿付後2～3ヶ月過ぎても正常の発根をしていない。軽微なものは発根するが、発根数が少ない上に地中挿木の中央又は地際まで2～3段に発根して発根が非常に悪い。また被害苗畑には相当多数の坊主苗（初年に発根しないで挿穂の切口が瘤状にふくれたいわゆるスギ挿木苗の膨腫病のもの）が残っているが、この坊主苗にも当年生挿穂の病害と同じ病害が発生している。

聞くところによれば、南那珂系のいわゆる飢肥スギは、枯損苗の坊主苗が多く、得苗率は地スギの80～85%に対し、飢肥スギは60%位であるという。飢肥スギの得苗率の少ない原因の一つは前にのべたような病害が、前々からあつたにもかかわらず、「スギの挿木苗には病害が発生しない」というこれまでの一般的観念から挿木苗に病害が発生していても「挿付けまでの技術、すなわち採穂から挿付までの取扱い処理が悪かつた」もの或は「発根率の悪い系統」と云う考えのもとに簡単にかたづけられて来たためではなからうか。この挿木苗の病害と坊主苗については今後充分な調査研究を必要とする問題である。

採穂林の被害……しかして苗畑の被害状況からその採穂林或はその附近の造林地を調査したところ、採穂した母樹の枝に挿穂と同じスギの枝枯病菌 (*Physalospora Cryptomeriae*) が認められ、本病害は、この枝枯病にかかつた枝をとつてさし

木したために発生したと思われる。採穂林地では北諸県郡西岳村戸ノ口村有林7～17年、2町歩の全滅をはじめ、北諸県郡中郷村、差平野木内谷20年生前後、日南市殿所17年生前後、同市鶴戸県行造林地15年生前後の各造林地に枝枯病が発生している。そこで、これらの地方で今後、採穂される場合は病害の有無をよく調査して健全木をえらび本病の被害を未然に防除することが肝要である。

防除法……(1)黄褐色或は赤褐色に変色した挿穂は抜き取つて焼却すること、(2)苗畑には6斗式石灰(等量)ボルドウ液に薬量1斗当5匁のウズブルを投入して毎月2回位(5月から9月頃まで)散布すること。(3)採穂は健全な母樹を選ぶこと。(4)枝枯病は造林地の凹地、谷沿の場所、或は密植土質等によつて樹勢の衰えた枝に発生する。特に15年生内外の造林地で除伐あるいは、下刈り手入れの行われていない所では下枝が灌木やススキなどにおおわれている部分に多いから除伐、下刈を行い通風をよくすること。

(林試宮崎・菌類研究室長)

ノネズミを駆除するノスリ

—異常発生と天敵—

芳賀 良一

北海道の日高地方にノネズミの異常発生したのは、昨年くれのことであるが、それにとまなう有益鳥獣類のうごきに興味もたれた。昆虫類の異常発生時には、各種の鳥類が集まつてきて駆除してくれることがよく知られているけれども、ノネズミの異常発生と天敵の場合についてはあまり知られていない。ノネズミの調査のかたわらこの点にも注意してみた。結論的には昆虫の場合のように特に集中してくることはないように推察される。

ノネズミ駆除の対照としては、イタチ類、クロテン、タスキ、キツネ等の獣類と、ワシ、タカ類、フクロウ類等の鳥類及びヘビ類などが棲息していて、その数には特に増減は認められなかつたが、ノスリが活潑に飛びまわっているのが目立つた。

7月初旬に第5回目の調査に行つたとき、比較的新しいペリット[※]をひろつた。内容物をしらべてみたところ5頭分のエゾヤチネズミの骨と皮がみとめられた。

該地は昨年11月には1町当り200頭以上のノネズミ棲息数で、1月にも3月にも120頭～150頭位の棲息数である。

ひろつたペリットはノスリのものとは断定できないが、たえず活発にせんかいしている様子や大きさからみて、ノスリのものと思われる。しかしペリットは山野を歩いていてもめつたに目につくものではないから、常棲しているノスリやフクロウなどが活発に捕食したということが推定できる。

したがって鳴禽類のような集団行動をとる鳥類は、昆虫類の異常発生時には沢山集まってくるもノネズミを捕食する日本のワシ、タカ類やフクロウ類は、群生活をしないのでノネズミが異常に増加しても特に集まってくることはない。しかし各個体の捕食数は増加し活発に駆除にあたると考えられる。その他の種類についても特に増加したことはなく同じことがいえると思われる。それ故ノネズミの天敵が常棲しているということが、駆除に大きな役立をもつていえる。

(北大農学部・芳賀良一)

註 * ペリット (Pellet) とは、肉食をするワシ・タカ・フクロウの類が、嚙下した餌の内で不消化な部分一毛、羽毛、骨、歯一を、拇指大か、時にはその2倍大の塊りにかためて、吐き出したものをいう。

昨春、栃木県日光地方の霧降高原の造林地に、突如としてノネズミの大被害が発生した際も、附近の上空を飛ぶノスリを認めペリットをも採取した。(防除室)

質疑応答

クロマツの病害

【問】 長野県下伊那郡川路村の50~100年生クロマツ庭園樹が本年4月初旬頃より旧葉が褐色に変わり始め遂には落葉し樹勢がおとろえ生育が極めて悪い、旧葉は現在殆ど枯損し、一部はそのまま枝に付着しております、被害葉を送りますから、お調べ下さい。

(長野県下伊那郡地方事務所)

【答】 病原菌、ロホデルミユウム、ピナストリ (*Lophodermium pinastri*) 但し灰褐色に枯死する枝のみ。

病名 マツの葉ふるい病

赤褐色に変じている針葉(枝が異なる)は原因不明さらに下部に原因があるものと考えられる、なお枝についているのは地衣類であり、それらの枝に及ぼす影響については知られていない。

(林試樹病研)

スギ挿木苗の病害

【問】 宮崎県庄内町からスギ挿木苗が被害を受けたので被害苗を送りますから調べて下さい。

(宮崎県林務部林政課)

【答】 1. 挿木苗から病原菌を検出しなかつた。
2. 病原菌は、*Cercospora cryptomeriaeicola* Sawada sp. nov. である。

防除法：罹病木の処置、隣接木への対策

- (1) 回復見込なき苗は焼却する。
- (2) 造林地の罹病枝は枝打ちして焼却する。
- (3) 下刈を行い林内に落ちている被害枝葉は取除き焼却する。(林試樹病研)

クリの病害

【問】 17年生のクリ樹が本年6月開花中急に二又になつた幹の1本が枯れ始めた、その後5月14~15日頃更に残りの1本も枯れてしまった、枯死前は生育極めて良好な優良木であつた、被害木を送りますからお調べ下さい。

(前橋営林局、今市営林署)

【答】 病名 クリの胴枯病
病原菌 エンドチア、パラジテカ (*Endothia parasitica*)

防除法 被害枝、幹は発見次第切除し処分する、幹の病斑がまだ小さいうちは外科手術により剥皮しコーラルを塗ることが有効適切であり栽培樹においては早期発見が望ましい。

記事 本菌は枝、幹についた。人工的或は自然の傷口から侵入する。したがって、カミキリムシ等の虫害を早期に除くことが本病の予病にもなる。また被害木を伐倒しても、そのまま放置するならば、菌は長い間生存し伝染源となるから薪にするにしても早く処分する要がある。

(林試樹病研)

ミズナラ、クヌギの虫害

【問】 各樹種の食痕を送りましたから虫名を教えてください。

(福井県林務課 小原 明)

【答】 クヌギ、ハンノキキクイムシ (別名 ヒメツツキクイムシ) *Xyleborus germanus*

ミズナラ、食痕はキクイムシ系のものでありませんが、なおよく調べてみます。

(前橋局 加辺正明)

ヒノキの病害

【問】 発生時期は3月中旬頃にして4月頃には完全に被害状況を呈する、植栽木の下枝の部分より枯上り漸次上部に及び枯死する、被害部分には白糸状の菌糸とみえるものもあつた。被害木の大半は植栽後10年生以下のものが大部分を占めている、なお同一被害を思われるものが当署管内各所に点在しております、被害部を送りますから調べて下さい。

(東京局、沼津営林署)

【答】 1. 病名 (1) ヒノキの葉ふるい病
Lophodermium chamaecyparissii SHIRAI et HARA.

(2) キクイムシ科ヒレジニ亜科に属する *Hyloterinae* sp. による食害

2. 防除法 (1), (2)ともに概して衰弱木等に寄生する場合が多く、これらが主因となつて枯死することは少ないようです、従つて他の何らかの原因によつて衰弱したところに、これが寄生し枯死を早めたものと考えられます。

取敢ずの処置としては枯死木は直ちに伐採、剥皮し皮及び葉は集めて焼却するか或は穴をほつて埋めて下さい。

3. その他 今後共に観察を続け、特に御質問に記してあるような「根部に白糸状の菌糸を見るもの」があつた場合は根と枝、葉等を両送付して下さい。(林試樹病研, 昆虫研)

クヌギの害虫

【問】 防風林として仕立てているクヌギの幼木に、次のような虫害が発生しております。被害標本を別送致しますから、害虫名、経過習性、防除法等について御教示下さい。

i) 被害状況 8月上旬に於いて、葉の1部が褐色を呈し、一見、秋の枯葉を思わせる。

ii) 被害樹は葉肉を食害され、被害葉面には灰褐色の斑紋を生じている。

(宮崎県北諸県農林事務所
東京都林務課)

【答】 被害状況及び、御送付の被害標本から、これは、ほそが科、*Lithocolletis* 属に属する害虫による被害と考えます。この害虫は、小形の蛾であつて、この属には種類が多く、種名は明らかではありませんが、普通の種類である「クヌギカバホソカ *Lithocolletis nipponicella* ISSIKI」ではないかと思ひます。

経過習性の概略は、幼虫が春から夏にかけて、クヌギ、ナラ等の葉組織内に潜入し、葉肉を食害する。一葉に寄生する幼虫は数頭であることが多い。幼虫が老熟すると、地上に落下する。この際幼虫を包んでいる円板形の葉片と共に落下する場合もある。老熟幼虫は土中に入り翌春蛹化し、次いで羽化する。発生は年1回か2回と考えられるが、経過習性についても詳しいことは不明です。

防除法は、幼虫が潜入中の被害葉を採集焼却する方法、及び秋から冬の間に、地表の落葉その他地被物を蒐集して、越冬中の老熟幼虫を殺すように焼却する方法等が考えられる。薬剤を使用して防除した例は、未だありません。

(林試, 昆虫研)

刊 行 物 紹 介

札幌営林局 札幌林友 30. 3
宮崎 長蔵：厚賀地区における防除溝による野鼠防除の
中間報告

大日本山林会 山林 30. 8
佐藤 邦彦：東北地方奥地造林地に於ける病害

富山県山林協会 山林とやま
今井 潔：農業と森林害虫

佐賀の林業 第30号
：雑木林

森総協 グリーンエージ
8月号 第5巻 第8号
原 耕太：野鼠に嫌われる落葉松
犬飼 哲夫：風倒木と野鼠の被害の問題
合田 〃：帯広営林局管内の
昭和29年度野鼠被害について
前田 〃：冬ごしネズミの害(2)

日本林業技術協会 林業技術 162

平川 松信：薬剤撒布ホース捌施設の考案
岡山県材務部 林業普及 34
〃：用語解説
〃：今月の苗畑病害と防除
林業相談：松の新梢を枯らす
〃：病害鑑定

林業会 佐賀の林業

崎田 善七：スギハダニの発生と防除について
井幡 清生：くりたまばちについて

林野庁編 私の普及日記

柴田真哉(福井)：松毛虫とともに
金子次雄(愛知)：藪医の行く道
喜多村昭(三重)：ある日の日記
丸山 崇(奈良)：松毛虫退治の日記
石井吉白(大分)：まつけむしの防除

農林協会 林野時報 Ⅲ. 7.

竹越 俊文：蔓延するクリタマバチ
北海道林業改良普及協会 山づくり No. 13

〃：松くい虫の被害防除
〃：野鼠の毒餌調査
〃：十五号颱風風倒木虫害防除計画表

北海道森林防疫協会 野ねずみ No. 7

井上 元則：北海道森林の大風倒にとまなう虫害防除対
策

(日本林業技協会発行)

三重県 三重の林業 No. 13

林 一：台風と害虫

日本植物防疫協会編
植物防疫年鑑 昭和 30 年版

本書は日本植物防疫協会が農業改良局、農業技術研究所、農業検査所、植物防疫所、蚕糸試験場、林業試験場等の、それぞれの専門家に委嘱して、防疫行政、防疫技術、防除資材等について、多数の資料を集められたもので、内容は制度、防除（農作、山林、桑、たばこ）、検疫、資材、（農薬、農薬検査取締、防除機具）、団体の動き、法規通達、統計資料（防除、予察、検疫、農薬、農薬取締、防除機具、山林）、名簿、業界の9篇にわかれ、病害虫防除の進展の経過が詳細に解説されてある。森林防疫関係の諸氏にも是非購読をおすすめします。

雑 録

井上元則氏からの 第1信
スイスにて

暑さの砌り益々御清栄のことと存じ上げます。

この度小生の海外出張に際しましては一方ならぬ御懇情を賜り、まことに有難く御礼の辞も御座いません。出発に際しましてはいろいろ御芳志を賜り深謝奉ります。

7月18日 19.50 羽田をたち20日 12.30 予定通りスイスのチューリツヒに着きました。Zürich県の林務部次長 Dr. Kuhn（前からの交通者）の指図で、Zürich 大学の昆虫主任教授 P. Bovey 博士以下のスタッフ及び林試の昆虫技師 Martignoni 氏及び大学の Dr. Maksymov その他 Zuoz というところのカラマツハイイロアミメハマキ試験地に行つているというのでそこへ 21 日に参りました。Zürich より5時間位かかるところです。附近には有名なスキー国際競技のあつたサンモリツがあり、見ることができました。

カラマツの害虫防除の研究は大がかりなもので大学、林試、及びこの地方県の林務部技師連中がスクラムを組んで実施していたのは面白い見学いたしました。

またスイスは昨年12月22—25日にかけてハリケン台風があり 350,000 m³ の被害があつたそうであるが、1口 50 ha より大きい風倒はなかつたそうです。被害林を Dr. Kuhn, Dr. Maksgmov 及び Kloster 地区の森林監督省等の案内で視察しました。

この地区では4月までに全部トーヒの丸太を剥皮したので防除剤は一切使用しないと申しました。法令で剥皮を命じていると申ししています。

北海道の大風倒の説明をしたら皆その量に驚いていました。ヘリコプターによる害虫駆除は

Maikäfer（コガネムシの一種）に対するものだけで、キクイムシやその他穿孔虫に対しては未経験とのことでした。

但し巻立丸太に対する予防剤には Xylophen というのが発明されておりました。Maag という農業会社があり、そこで製造しているものです。Xylophen にはいろいろ種類があり、穿孔虫用のもの、腐朽菌用のもの、両者を兼用のものなどができていました。

主剤はPCP. とリンデンとのことでしたが内容は秘密であるから教えられないということでした。その他木工場の土場材や乾燥法などについて見学しました。トーヒの苗畑も見学いたしました。スイスの林業機構や林試の機構なども調べました。試験報告の取纏めなどについても調べました。

チューリツヒの理工科大学の昆虫学教室で従来私共が疑問にしていたマツノコマダラメイガとマツマダラメイガの区別を勉強することができました。これは日本の森林昆虫に大いにプラスになることと思います。標本ももらいましたので心強く思います。

本日午後ドイツに向います。

皆様は何卒よろしく御伝え下さい先は近況御報告まで。
井上元則

訂正 Vol. 4 No. 8, p. 157 詳報「スギ苗の林地根腐病—秋田県下に大発生—」の防除対策 (p. 158) の次に下記の附記を追加します。

附記 その後の現地調査と現地の方々の観察結果から、この病害の突発したものは昨年秋の 15 号颱風により苗木がはなはだしく振動し、根部が衰弱したことも大きい原因と考えられる。しかし、風のために直接被害をうけて枯死したものは認められない。要するに颱風はこの病害の誘因として看過できないものと考えられる。

(林試秋田・佐藤那彦)

Vol. 4, No. 8, p. 151 情報 病害 東京

「○ スギ」は「○ スギの軸枯病」の誤りです。

(防除室)

松くい虫国営駆除に関する協議会

7月13日午前9時30分から、合同庁舎7階第1会議室において、昭和30年度における松くい虫国営駆除の関係県、兵庫、岡山、山口、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島県の8県の担当職員が集り、実施計画について協議を行った。

スギタマバエ防除に関する協議会

7月14日午後13時から、合同庁舎7階第1会議室において、近年、鹿児島、宮崎両県下に蔓延しつつあるスギタマバエの防除についての協議会を催し、上記両県の外、熊本営林局、隣接県として熊本県も参集の上、これが蔓延状況、防除対策等について協議を行った。

(防除室)